

浜岡原子力発電所3号機 タービン建屋内への海水の浸入について（続報）

平成 21 年 10 月 16 日

◆今回お知らせする内容

点検・対応結果	<p>当社は、海水の浸入があった配管貫通部の点検・補修を行い、配管貫通部に防水効果が期待できる隙間材を追加充填するとともに、貫通部周囲にシール材を塗布し、当該配管貫通部のシール性を向上しました。</p> <p>また、放水路とタービン建屋を連絡する配管ダクト内に放水路から海水が浸入するのを防止するため、当該配管ダクト内に土嚢による堰を設置しました。</p> <p>今後、当該ダクト内に放水路から海水が浸入しないための恒久的な対策についても検討してまいります。</p>
---------	---

◆これまでにお知らせした内容

（平成21年10月8日お知らせ済み）

発生号機	3号機（調整運転中） ：沸騰水型、定格電気出力110万キロワット
発生年月日	平成21年10月8日
発生時の状況	<p>午前9時25分、協力会社社員がタービン建屋地下1階の空調機器冷却海水ポンプエリア（放射線管理区域）で、タービン建屋の配管貫通部から水が浸入していることを発見しました。</p> <p>直ちに現場を確認したところ、タービン建屋地下1階の空調機器冷却海水ポンプエリアの床面に水溜まり（約5m×約50m）があり、この水を分析したところ、放射性物質は含まれておらず、海水であることを確認しました。</p> <p>放水路とタービン建屋を連絡する配管ダクト内に海水が浸入しており、配管ダクト内に設置している排水ポンプおよび仮設排水ポンプにより排水し、タービン建屋内への海水の浸入は停止しました。</p> <p>なお、タービン建屋内へ浸入した海水は、排水処理設備にて適切に処理しています。</p> <p>本事象によるプラントの運転への影響はなく、安定運転を継続しております。</p>
原因	<p>原因は、潮位の上昇および台風18号の影響による海のうねりにより、放水路内の水位が上昇し、放水路とタービン建屋を連絡する配管ダクト内に海水が浸入し、配管ダクトとタービン建屋の接続部に設置されている配管貫通部よりタービン建屋内に浸入したものと推定しました。</p>
放射能の影響	本事象による外部への放射能の影響はありませんでした。
お知らせ基準	<p>運転情報 「表2-11 建屋内において、雨水等の浸入を発見したとき」に該当します。</p>

以 上